

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-139314

(P2000-139314A)

(43)公開日 平成12年5月23日(2000.5.23)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード <sup>*</sup> (参考)
A 0 1 K 97/20	5 0 1	A 0 1 K 97/20	5 0 1 2 B 1 0 9

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平10-326858

(22)出願日 平成10年11月17日(1998.11.17)

(71)出願人 000002439

株式会社シマノ

大阪府堺市老松町3丁77番地

(72)発明者 松本 聖比古

大阪府堺市老松町3丁77番地 株式会社シマノ内

(74)代理人 100094145

弁理士 小野 由己男 (外1名)

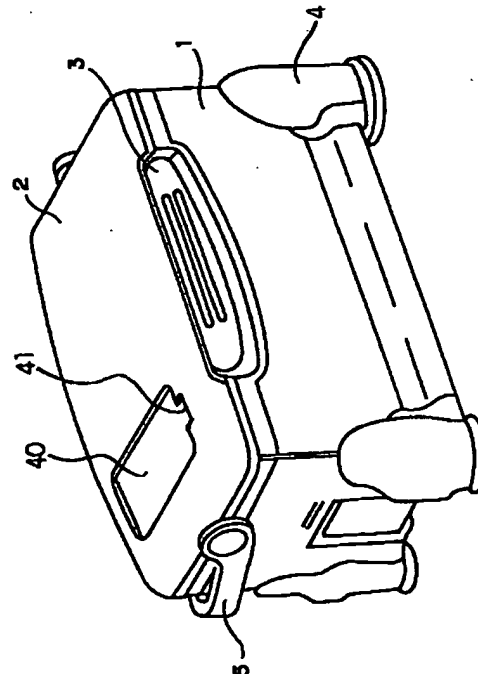
Fターム(参考) 2B109 DA32

(54)【発明の名称】 クーラーボックス

(57)【要約】

【課題】 宅配便の送付状が剥がれ落ちたり破損してしまうことのないクーラーボックスを提供する。

【解決手段】 このクーラーボックスは、箱形の容体部1と、蝶番によって開閉可能のように容体部1の上部設けられている蓋部2と、蓋部2を容体部1に密閉し固定するフック3と、容体部1の四隅に設けられた脚部4と、容体部1に開動可能に接続されているハンドル5とを有している。蓋部2の上表面には、上表面より5～10mm程度の深さで四角型に形成された窪み部40が設けられている。窪み部40は、宅配便において用いる送付状Pが貼り付け可能な大きさであって、15cm×25cm程度の四角型である。この窪み部40の四角型の一辺に外方に突出するように窪み部40に連続して逃がし部41が形成されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】箱型の容体部と、  
前記容体部の上部に開閉可能に設けられた板状の蓋部と、  
前記蓋部の表面に形成され宅配便の送付状を貼付可能な窪み部とを備えたクーラーボックス。

【請求項2】前記窪み部は前記蓋部の表面に四角型に形成されている、請求項1に記載のクーラーボックス。

【請求項3】前記窪み部は四角型の一部に突出して形成された逃がし部を有している、請求項2に記載のクーラーボックス。

【請求項4】前記窪み部は前記蓋部の表面から5～10mmの深さで窪んでいる、請求項1～3のいずれかに記載のクーラーボックス。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、魚等を収納し保冷するクーラーボックスに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のクーラーボックスは、箱形の容体部と、容体部上部に蝶番等によって開閉可能に設けられた板状の蓋部と、容体部の底面に設けられた脚部とを有している。この容体部及び蓋部は内部にポリウレタン等の断熱材が充填されている。このクーラーボックスは、氷や保冷剤と共に魚等を容体部内に入れて使用される。この際、本体部及び蓋部が有する断熱効果により、内部の温度を低く保つことができ、内部に収納した魚等が保冷される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】釣りをを行うために遠方まで出かける場合、クーラーボックスを運搬するのが煩雑なので宅配便によって予めクーラーボックスを別送することがある。宅配便でクーラーボックスを送付する際に蓋部に送付状を貼り付けておくと、この送付状が運搬中に他の荷物等と接触して剥がれ落ちたり破損したりして紛失してしまい、クーラーボックスが無事に目的地に届かない恐れがある。

【0004】本発明の課題は、宅配便の送付状が剥がれ落ちたり破損してしまうことのないクーラーボックスを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】発明1のクーラーボックスは、箱型の容体部と、容体部の上部に開閉可能に設けられた板状の蓋部と、蓋部の表面に形成され宅配便の送付状を貼付可能な窪み部とを備えている。

【0006】宅配便によってクーラーボックスを送付する場合には、蓋部の表面に形成された窪み部に宅配便の送付状を貼り付ける。送付状がクーラーボックスの蓋部の表面に突出していないので、運搬中に送付状が他の荷物等と接触して剥がれ落ちたり破損してしまうのを防止

できる。

【0007】発明2のクーラーボックスは、発明1のクーラーボックスであって、窪み部は蓋部の表面に四角型に形成されている。

【0008】この場合には、窪み部が四角型に形成されており、宅配便の送付状を窪み部に容易に貼り付けることができる。

【0009】発明3のクーラーボックスは、発明2のクーラーボックスであって、窪み部は四角型の一部に突出して形成された逃がし部を有している。

【0010】この場合には、逃がし部から宅配便の送付状を窪み部に貼り付けたり取り剥がしたりすることができ、送付状の取り外し作業が容易になる。

【0011】発明4のクーラーボックスは、発明1～3のいずれかのクーラーボックスであって、窪み部は蓋部の表面から5～10mmの深さで窪んでいる。

【0012】この場合には、窪み部が所定の深さで蓋部の表面から窪んでおり、クーラーボックス運搬中に窪み部に貼り付けた送付状が剥がれ落ちてしまうのを有効に防止できる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施形態について説明する。

【0014】図1に示すように、クーラーボックスは、箱形の容体部1と、蝶番（図示せず）によって開閉可能のように容体部1の上部設けられている蓋部2と、蓋部2を容体部1に密閉し固定するフック3と、容体部1の四隅に設けられた脚部4と、容体部1に開動可能に接続されているハンドル5とを有している。

【0015】容体部1は、図2に示すように、内殻体11と外殻体12とを有している。内殻体11と外殻体12との間には中空となっており、この中空には発泡ポリウレタン樹脂等の発泡樹脂等からなる断熱材13が充填されている。内殻体11は、ポリプロピレン等の合成樹脂からなる部材であって、内部に魚等を収納可能な略直方体の空室部14を形成している。内殻体11の上端部周縁は折り返されて外殻体12の上端部周縁に係着されている。一方、外殻体12もポリプロピレン等の合成樹脂からなる部材であり、容体部1の外周面を形成している。

【0016】この内殻体11は底面外側面四隅付近にそれぞれ設けられ下方に向かって突出した柱状部31を有し、外殻体12は底面内側面四隅付近に設けられ柱状部31を挿入可能な柱受部32を有している。そして、内殻体11と外殻体12とは、柱状部31を柱受部32に挿入した状態でボルト等（図示せず）によって固定されている。

【0017】蓋部2は、容体部1と同様に断熱効果を必要とするものであり、図3に示すように、蓋部2の外殻を形成する外殻部21と内殻を形成する内殻部22とを

有している。そして、外殻部21と内殻部22との間には発泡ポリウレタン製の断熱材23が配置されている。

【0018】また、図1及び図3に示すように、蓋部2の上表面には上表面より5～10mm程度の深さで四角型に形成された窪み部40が設けられている。窪み部40は、宅配便において用いる送付状Pが貼り付け可能な大きさであって、15cm×25cm程度の四角型である。この窪み部40の四角型の一辺に外方に突出するように窪み部40に連続して逃がし部41が形成されている。逃がし部41は図3に詳しく示すように、窪み部40の底面から蓋部2の上表面まで連続的に傾斜して形成されている。

【0019】このように構成されたクーラーボックスを宅配便で搬送する場合には、窪み部40に宅配便の送付状Pを貼り付ける。窪み部40に貼り付けられた送付状Pはクーラーボックスの蓋部2の表面に突出していないので、運搬中に他の荷物等と送付状Pとが接触して、送付状Pが剥がれ落ちたり送付状が破れてしまったりするのを防止できる。また、逃がし部41から送付状Pを窪み部40に貼り付けたり取り剥がしたりすることができ、送付状の取り外し作業が容易である。特に、逃がし部41は、窪み部40の底面から蓋部2の上表面まで連続的に傾斜して形成されており、送付状Pを引き剥がす際に送付状Pへ指を挿入するのが容易になる。

#### 【他の実施形態】

(a) 蓋部2の窪み部50に連続して形成される逃がし部51は、上記実施形態のように蓋部2の表面と連続的に形成されていなくてもよい。例えば、図4に示すように、窪み部50の底部と同じ深さで逃がし部51を形成

して、蓋部2の表面とは階段状に段差を形成してもよい。

(b) クーラーボックス容体部及び蓋部は内殻部と外殻部とが別途形成されず一体的に形成されて、内部に断熱材が配置されていてもよい。

(c) 蓋部については、特に断熱材を配置することなく中実の部材としてもよい。

#### 【0020】

【発明の効果】本発明にかかるクーラーボックスでは、宅配便の送付状を貼り付け可能な窪み部が蓋部に形成されているので、配送中に送付状が剥がれ落ちたり破損したりすることがない。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態を採用したクーラーボックスの全体図。

【図2】図1のクーラーボックスの側面図。

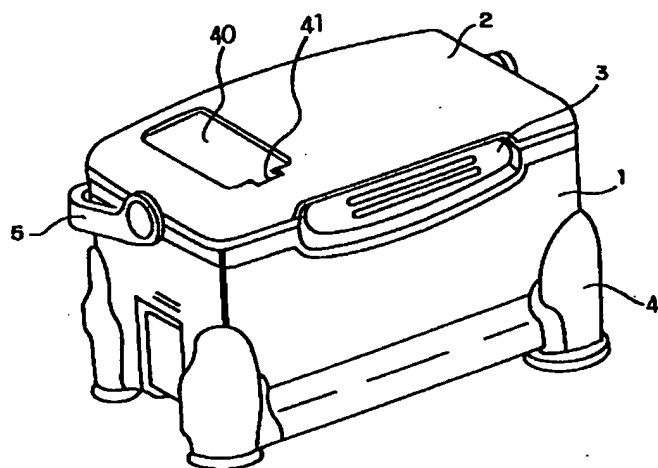
【図3】本発明の一実施形態を採用した蓋部の拡大断面図。

【図4】本発明の他の実施形態を採用した蓋部の拡大断面図。

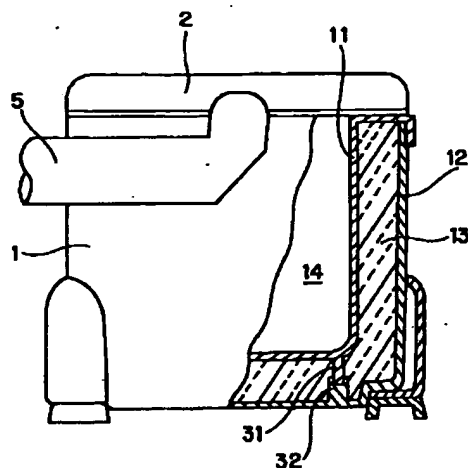
#### 【符号の説明】

- 1 容体部
- 2 蓋部
- 5 ハンドル
- 11, 21 外殻部
- 12, 22 内殻部
- 40, 50 窪み部
- 41, 51 逃がし部

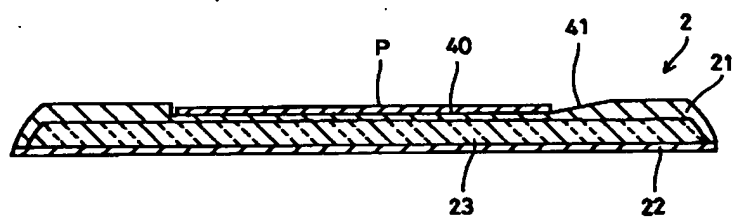
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

